# 安全データシート（ＳＤＳ）

## １.化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　同　上
改訂日　2024/09/17
SDS整理番号　01067151

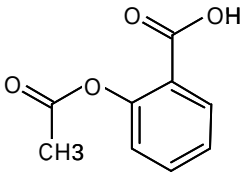
製品等のコード　：　0106-7151、0106-6131

製品等の名称　：　アセチルサリチル酸

推奨用途　：　試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
解熱鎮痛薬、血小板凝集阻害薬、血栓溶解薬、抗リウマチ薬、循環器系作用薬、非ステロイド系消炎薬　など

使用上の制限　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと




## 2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
自己反応性化学品　：　区分に該当しない
自然発火性固体　：　区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性（経口）　：　区分4
皮膚腐食性/刺激性　：　区分に該当しない　〔区分3(国連GHS分類)〕
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分2A
呼吸器感作性　：　区分1
生殖毒性　：　区分1B
追加区分：授乳に対する又は授乳を介した影響
特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分1（中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚)）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　区分1（血液系、中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚)）

注意喚起語　：　危険

危険有害性情報
飲み込むと有害（経口）
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
吸入するとアレルギー、喘息又は、呼吸困難を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
授乳中の子に害を及ぼすおそれ
中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器(聴覚)の障害
長期又は反復ばく露による血液系、中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚)の障害

注意書き
【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。

妊娠中、授乳中は接触を避けること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
【保管】
湿気、直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ：化学物質
化学名 ：アセチルサリチル酸
（別名）アスピリン、2-(アセチルオキシ)ベンゼンカルボン酸、2-アセチルオキシ安息香酸、o-アセチルオキシ安息香酸、2-アセトキシ安息香酸、オルト-アセチルサリチル酸
（英名）Acetylsalicylic acid、Aspirin、Salicylic acid acetate、2-Acetyloxybenzoic acid、2-Acetoxybenzoic acid、o-Acetyloxybenzoic acid、O-acetylsalicylic acid（EC名称）、Benzoic acid, 2-(acetyloxy)-（TSCA名称）

成分及び含有量 ：アセチルサリチル酸、 99.5%以上（乾燥後）
化学式及び構造式 ：$(CH_3CO_2)C_6H_4COOH$、 $C_9H_8O_4$、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量 ：180.16
官報公示整理番号 化審法 ：(3)-1652
安衛法 ：公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No. ：50-78-2
EC No. ：200-064-1
危険有害成分 ：アセチルサリチル酸

## 4. 応急措置

吸入した場合 ： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
呼吸に関する症状が出た時は、医師に連絡する。
気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合 ： 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。
皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合 ： 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。
まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
その後も洗浄を続ける。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合 ： 口をすすぎ、うがいをする。
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
意識がない時は、何も与えない。
気分が悪い時は、医師の診察を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:
吸入 ：咳、咽頭痛
皮膚に付着：発赤
眼に付着 ：発赤、痛み
経口摂取 ：吐き気、嘔吐
医師に対する特別注意事項：本物質により喘息の症状を示した者は、以後、本物質に接触しないこと。ばく露の程度によっては、定期検診を勧める。

## 5.火災時の措置

適切な消火剤 ： 本製品は可燃性である。
粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤： 棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
特有の危険有害性 ： 火災中に熱分解し、刺激性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
加熱により容器が爆発することがある。
特有の消火方法 ： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護 ： 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項 ： 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 ： 裸火禁止。
漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
漏洩物が液状化した場合、土砂等に吸着させてできるだけ回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材
： 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策 ： 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7.取扱いおよび保管上の注意

取扱い
技術的対策 ： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
粉じんの堆積を防止する。
局所排気・全体換気 ： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項 ： 裸火禁止。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
妊娠中、授乳中は本品との接触を避ける。
接触回避 ： 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管
技術的対策 ： 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件 ： 直射日光や高温多湿を避けて保管する。
吸湿すると分解しやすいので、乾燥した場所に保管する。
容器を密閉して冷暗所に保管する。
必要に応じて施錠して保管する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質 ： 強酸化剤
容器包装材料 ： ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

## 8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度 ： 未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会 未設定
ACGIH TLV-TWA 5mg/m3
設備対策 ： 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置

する。

保護具
呼吸器の保護具 ： 呼吸器保護具（防じんマスクなど）を着用する。
手の保護具 ： 保護手袋（塩化ビニル製、ニトリル製など）を着用する。
眼の保護具 ： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具： 長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策 ： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9．物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など： 無色～白色の結晶又は白色の結晶粉末
臭い ： ほとんど無臭（分解すると酢酸臭がある）
pH ： 約3.5（0.25 g/100mL 、20 ° C ）
融点 ： 135℃
凝固点 ： データなし
沸点 ： 分解 （140℃）
引火点 ： 250℃（密閉式）
可燃性 ： 可燃性
爆発範囲 ： データなし
粉末や顆粒状で空気と混合すると粉塵爆発の可能性あり
蒸気圧 ： 0.004 Pa（25℃）
相対ガス密度（空気 = 1） ： データなし
密度又は相対密度 ： 1.4 g/cm3
比重 ： データなし
溶解度 ： 水に溶けにくい（0.33g/100mL、25℃）。
エタノール、アセトンに溶ける。
オクタノール/水分配係数 ： 1.19
発火点 ： 490℃
分解温度 ： 140℃以下
粘度 ： データなし
動粘度 ： データなし
粒子特性 ： データなし

ＧＨＳ分類
自己反応性化学品 ： 分子内に爆発性に関連する原子団、あるいは自己反応性に関連する原子団を含んでいないことから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体 ： 発火点が490℃であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。

## 10．安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）
： 乾燥状態では安定である。
湿気、水分により分解しやすい（サリチル酸と酢酸に分解）。
アルカリで分解する。
危険有害反応可能性 ： 粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。
酸化剤、強塩基、アミン類と混触すると、激しく反応することがある。
銅、ニッケル、鉄等の金属を侵すので接触を避ける。
避けるべき条件 ： 湿気、日光、高温
混触危険物質 ： 酸化剤、アルカリ物質、金属（銅、ニッケル、鉄等）
危険有害な分解生成物 ： 燃焼した時、有害ガス（一酸化炭素、二酸化炭素）を発生する。
加水分解により、有害性のサリチル酸を生成する。

## 11．有害性情報

急性毒性 ： 経口 ラット LD50＝1500mg/kg前後（IUCLID（2000））
飲み込むと有害（経口） （区分4）
経皮 分類できない。。
吸入（蒸気） 分類ができない。
吸入（粉じん）分類ができない。
皮膚腐食性/刺激性： ウサギを用いた皮膚刺激性試験においてわずかな刺激性を示した（IUCLID(2000)）との報告が2件あることから、区分３に分類した（国連GHS分類）。
ただし、分類JISでは区分に該当しないである。
軽度の皮膚刺激（区分3）
眼に対する重篤な損傷/刺激性
： ウサギで中程度の刺激性がある（IUCLID(2000)）ことから、区分２Ａと

した。
強い眼刺激（区分2A）

呼吸器感作性 ： ヒトにおいて呼吸器感作性を示すとの報告や（ACGIH（2001)、IUCLID (2001))、アスピリン喘息を発症する事例がある（HSDB（Access on June 2014)）ことから、区分１と分類した。
吸入するとアレルギー，喘息または呼吸困難を起こすおそれ（区分1）

皮膚感作性 ： 分類ができない。

生殖細胞変異原性 ： 分類できない。
In vivoのデータはなく、in vitroでは細菌を用いる復帰突然変異試験で陰性である（HSDB（2014)、IUCLID（2000)、NTP DB(2014))。

発がん性 ： 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。

生殖毒性 ： IPCS, PIM 006（1991）には、胚の培養系では、単回投与のサリチル酸の血漿中濃度付近で奇形がみられること、ラットはサリチル酸の催奇形性影響に対して感受性が高く、一方、ヒト及びヒト以外の霊長類は抵抗性があると考えられていることが記載されている。
また、サリチル酸塩中毒が経胎盤、経乳汁で生じる可能性があることが記載されている。
HSDB（2014）には、実験動物においては、妊娠初期の投与で様々な奇形（顔面裂、中枢神経系及び眼の欠損、内臓及び骨格奇形）を引き起こすが、使用を管理されているヒトでは奇形はみられていない。
妊娠の最終週に長期間、高用量のサリチル酸の処置は妊娠期間の延長、出生後の胎児、新生児の出血のリスクの増加を引き起こす場合があり、理論的には妊娠末期の定常的な使用は胎児の動脈管の早期の閉鎖、収縮を引き起こすおそれがある。
治療量での出生児体重の減少、死産の増加は報告されていない。
サリチル酸はFDAの妊娠カテゴリーC（動物の生殖試験では胎仔に催奇形性、胎仔毒性、その他の有害作用があることが証明されており、ヒトでの対照試験が実施されていないもの。
あるいは、ヒト、動物ともに試験は実施されていないもの。
注意が必要であるが投薬のベネフィットがリスクを上回る可能性はある）に分類されている。
上記のとおり、実験動物において催奇形性を示すが、ヒトにおいては治療量での発生毒性の報告がないことから、区分1Bに分類する。
また、乳汁移行の可能性が報告されていることから、「追加区分：授乳に対する又は授乳を介した影響」とした。
生殖能または胎児への悪影響のおそれ （区分1B）
授乳中の子に害を及ぼすおそれ（追加区分）

特定標的臓器毒性（単回ばく露） ： ヒトへの経口経路による主な影響は、耳鳴り、聴力損失、痙攣、昏睡、混乱、せん妄、昏迷、振戦、脳浮腫など中枢神経毒性、肝毒性、肺浮腫が報告されている。
その他、嘔吐、上腹部不快感、胃腸の出血、頻呼吸あるいは過呼吸、発汗、血管拡張などが報告されている（HSDB（Access on June 2014)、IPCS, PIM 006（1991))。
アスピリンの臨床知見から胃粘膜刺激性が知られており、嘔吐、心窩部不快感、潰瘍、吐血や下血、潜失血の報告がある（ACGIH（7th, 2001)、HSDB（2014)、IPCS, PIM 006（1991))。
以上より、主な標的臓器は中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器（聴覚）と考えられ、区分1（中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器（聴覚））とした。
中枢神経系、胃、肝臓、肺、感覚器（聴覚)の障害（区分1）

特定標的臓器毒性（反復ばく露） ： 本物質（アスピリン）の内服により、血小板凝集阻害の機序による出血傾向(凝固時間の延長）を生じ、治療のための常用量（600 mg）を5日以上服用すると血液凝固異常をきたす（ACGIH（7th, 2001)）との記述より、区分1（血液系）とした。
また、情報源の信頼性ランクとしてはList 1相当と判断した IPCS, PIM 006（1991）には、慢性サリチル酸塩中毒症として、成人では神経症状、吐き気、嘔吐、胃出血（急性症状としては稀で、典型的な慢性中毒症状)、高齢者では呼吸不全、肺浮腫が高頻度にみられ、その他、過呼吸、脱水症、重度の中枢神経症状も多発するとの記述、さらに、標的器官は細胞代謝を受ける全組織であるが、特に、肝臓（肝機能障害)、腎臓（急性腎不全)、肺、内耳神経であるとの記述がある。
従って、区分1（中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器（聴覚））を追加することとした。
長期又は反復ばく露による血液系、中枢神経系、胃、肝臓、腎臓、肺、感覚器(聴覚)の障害（区分1）

誤えん有害性 ：分類できない。

## 12．環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性)： 区分に該当しない。
甲殻類（オオミジンコ）48時間EC50>100mg/L（IUCLID、2000）
水生環境有害性 長期(慢性)： 区分に該当しない。
本品は良分解性である。
また、難水溶性でなく(水溶解度=4600mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性 ： データなし。良分解性（経済産業省：化学物質安全性点検結果）
本品は湿気、水分により分解しやすく、サリチル酸と酢酸を生成する。
参考：サリチル酸 BOD＝88.1%）

生物蓄積性 ： 低濃縮性。Log Kow＝1.19

土壌中の移動性 ： データなし

オゾン層への有害性 ： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13．廃棄上の注意

残余廃棄物 ： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1)燃焼法
可燃性溶剤に溶かし、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室へ噴霧し、焼却する。
(2)活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。

汚染容器及び包装 ： 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14．輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 ：154

国連番号 ：2811
品名 ：その他の毒物（有機物、固体、他の危険性を有しないもの）
（TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S.）
国連分類 ：6.1（毒物） 副次危険 ー
容器等級 ：III
海洋汚染物質 ：非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類
：非該当
少量危険物許容量 ：5kg
特別の安全対策 ：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15．適用法令

労働安全衛生法 ： 名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号 第12号「アセチルサリチル酸（別名アスピリン）」、対象重量%は≧0.3）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号 第12号「アセチルサリチル酸（別名アスピリン）」、対象重量%は≧0.1）
（令別表第９）
（注）令和7年4月1日以降、政令番号：規則別表第2の第44号に変更

皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質

・皮膚刺激性有害物質「アセチルサリチル酸、対象重量%は≧１」
（安衛則第594条の2）

なお、がん原性物質に非該当（安衛則第577条の2）

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
：非該当〔2023年(R5年)4月1日施行の法改正にも非該当〕
毒物及び劇物取締法 ：非該当
消防法 ：非該当
船舶安全法 ：毒物類・毒物
航空法 ：毒物類・毒物
海洋汚染防止法 ：非該当
輸出貿易管理令 ：キャッチオール規制（別表第1の16項）
HSコード：2918.22
第29類 有機化学品
・輸出統計番号（2024年1月版)：2918.22-000
「カルボン酸（他の酸素官能基を有するものに限る。）並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
－フェノール官能のカルボン酸（他の酸素官能基を有するものを除く。）並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体：オルト-アセチルサリチル酸並びにその塩及びエステル」
・輸入統計番号（2024年4月1日版)：2918.22-000
「カルボン酸（他の酸素官能基を有するものに限る。）並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
－フェノール官能のカルボン酸（他の酸素官能基を有するものを除く。）並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらの誘導体：オルト-アセチルサリチル酸並びにその塩及びエステル」

## 16．その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 ：


| | |
|---|---|
| 化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社 |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ | 化学工業日報社(2007) |
| 化学物質の危険･有害便覧 | 中央労働災害防止協会編 |
| 化学大辞典 | 共同出版 |
| 安衛法化学物質 | 化学工業日報社 |
| 産業中毒便覧(増補版) | 医歯薬出版 |
| 化学物質安全性データブック | オーム社 |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) | 三共出版 |
| 化学物質の危険・有害性便覧 | 労働省安全衛生部監修 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM | |
| GHS分類結果データベース | nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報 | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP |


このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。